

W. N. J. ニュースレター No.23

発行 ワーカーズ・コレクティブ ネットワーク ジャパン Workers' Collective Network Japan 2005 4 20
東京都世田谷区赤堤 4-1-6 赤堤館 代表藤木千草 Tel 03-3325-3720 Fax 03-3325-7955
ホームページ: <http://www.wnj.gr.jp> Email info@wnj.gr.jp

介護保険見直し案 ~~~~~

WNJとして「意見書」を厚生労働省へ提出

~~~~~

2000年に始まった介護保険も5年目にあたり、法律にも規定された見直し案が2005年に出された。内容は概略下記の通りである。これに対してWNJとして意見書を2004年12月28日、民主党の石毛えい子議員を通じて厚生省へ提出した。同時にNPO法人北海道たすけあいワーカーズ、NPO法人アピリティクラブたすけあ人も独自に意見書を提出した。

#### 厚生省よりの見直し案

##### 1. 予防重視型システムへの転換

現行の「要支援」「要介護1」より認知症、利用が困難な状況の人を除き地域包括支援センターでの「予防給付」へ移行。

##### 2. 施設給付の見直し

施設における食費、居住費用は利用者負担とする。

##### 3. 地域密着型サービスの創設

小規模多機能型居宅介護等新しい住まい方が必要。

##### 4. サービスの質の向上

事業所が調査を受け公表、申請拒否も可能に。

##### 5. 負担のあり方、制度運営の見直し

保険料の見直し、認定調査、申請代行等の見直し。

介護保険は利用者がサービスを選べる利点があったが、一方で一部事業者による制度の乱用が指摘され、今回の見直し案では行政の指導が強化され、介護保険が変容するのではないかと懸念されている。

#### 介護保険制度見直しにあたっての意見書

2004年12月20日

ワーカーズ・コレクティブネットワークジャパン

##### 1. 制度見直しの基本的な考え方について

この度の制度見直しの意見は、急速な高齢化の進展に備えて持続可能な制度として、「給付の効率化・重点化」を推進することのみが強調され、介護保険の理念である「人権の尊重」や一人一人の「自己決定」の視点がどこかに置き去りにしてはいないでしょうか。また保険料を払って必要なサービスを受けることができないという被保険者の介護保険度に対する不信感につながるのではないかと危惧しています。

(1) 要支援・介護度1の軽度者の切捨てはしないでください

(2) 「生活支援」を介護予防として位置づけてください

2. ホームヘルパー(訪問介護員)の労働環境を整備してください

3. 「地域」をつくる主体としてNPOワーカーズ・コレクティブ等の非営利市民事業の位置づけを明確にすることを求めます。

## スマトラ沖津波地震被害支援募金

723,305円

集まりました。ご協力ありがとうございました！

募金の支援先は私たちと同じように地域で活動している協同組合に送りたいと調査していましたが下記2団体を中心に送りたいと思います。

スリランカ女性開発サービス組合(通称女性銀行)(津波被災者への救援・生活、住宅再建)  
インドのGujarat Co-operative Milk Marketing Federation Ltd.(モンブラン会議参加団体)

第7回ワーカーズ・コレクティブ全国会議 12月3,4日於横浜市開港記念館

## 日本のワーカーズ・コレクティブの現状について報告

2004年12月1~2日に開催された第3回ICA地域協同組合フォーラム及び第6回ICAアジア地域総会、それに先立ち11月29~30日に開催された第4回アジア女性委員会・第4回アジア女性委員会フォーラム・第3回アジア研究者会議にWNJ代表の藤木千草と運営委員の中村久子が参加し、改めて協同組合が社会で果たす役割の重要性と、自分たちが暮らす地域でも世界レベルでも協同組合間協同が不可欠であることを実感しました。

### (11月29日~30日)第4回女性委員会

#### 第4回女性フォーラム・第3回研究者会議

WNJ運営委員 中村久子

第6回アジア協同組合大会がタイのチェンマイ市内ロータス PSK ホテルで一週間に渡り開催され、約1200名(内タイ国内からは900名)の参加がありました。会場となったロータスホテルは、民族色豊かな服装の女性たちの姿も目立ち熱気に包まれました。私はこの総会に先立って開催された11月29日の第4回アジア女性委員会はオブザーバーとして、30日は女性委員会フォーラムと研究者会議の両方に興味のあるテーマを選びながら参加しました。

女性委員会では、インド、イラン、日本、マレーシア、タイ、シンガポールからの報告を受け、意見交換、2005-06に向けての活動についての討議がされました。

研究者会議は朝から夕方まで通訳なしで20本近くの研究発表を聞くという大変ハードなものでした。特にインドからの報告が多く協同組合のお国柄を見ることができました。WNJ代表の藤木千草さんが日本のワーカーズ・コレクティブの現状について報告しました。今回は研究者会議(男性多数)での発表でしたが、より多くのアジアの女性たちと共有する価値があるので、女性委員会フォーラムの方がふさわしかったのではないかと感じました。今後もアジアの女性たちとのネットワークづくりが重要であることを認識できました。

### 第3回ICA地域協同組合フォーラム

#### 第6回ICAアジア地域総会(12月1~2日)

WNJ代表 藤木千草

前日の研究者会議とは打って変わって、1日の午前中はタイ式のパフォーマンスも交

えた華やかな開会式が行われました。しかし、午後から翌日の夕方まで合計6つのセッションのもと、アジア各国の協同組合のリーダー合計15人によるスピーチが続きました。今回のフォーラムのテーマは「グローバル化経済の中での協同組合のリエンジニアリング」であり、様々な切り口で各国の取り組み、主張が繰り広げられました。印象に残っている言葉としては次のようなものがあります。「グローバル化に抗うのではなく協同組合ならではのグローバル化を考え、地域社会に根付くグローバル化のチャンスととらえてはどうか」「公正なグローバル化の尺度が必要である」「協同組合の価値と原則をもっと深く本当に理解し信じるべきである」「企業は利害関係者へのみ責任があるが、協同組合は地域への責任がある」「協同組合はすべての人が先生であり生徒である」「協同組合のリーダーには営利企業のリーダーではないという訓練が必要」「協同組合は経済面だけではなく数字では表せない貢献をしている」「組織がうまくいかなくなると互いを批判し始める。学習するという文化が必要だ」「協同組合のCEOは理事会を助け、プロとしてまとめて実行できる人であるべき」「協同組合のリーダーは他の人たちに仕えるという姿勢が必要」また、オーストラリアで効率化と組織の単純化のために協同組合の株式会社化が進んだ問題点の報告もありました。

共通の課題は「組織運営の難しさ」「リーダー層のあり方」「広報宣伝の弱さ」であり、それを解決するために「協同組合の価値と原則の再認識」や「協同組合間協同をすすめること」だということが共有されました。全体として、ワーカーズ・コレクティブの経営や運動の推進に示唆の富む内容でした。